

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-85	高等学校	国語	現代文B	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
50 大修館	現B329/330	現代文B 改訂版 上巻 下巻		

1. 編修の基本方針

- ・近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、総合的な国語力をはぐくむことができるよう配慮する。
- ・思考力や想像力、認識力を伸ばし、感性や情緒をはぐくむことを重視し、進んで読書し、自らの読書生活を豊かにしていく態度が身につくよう配慮する。
- ・教育基本法第2条に示された教育目標への対応に配慮しつつ、近代から現代まで、さまざまな内容、ジャンルの教材を幅広く取り上げる。
- ・教材化にあたっては、生徒の興味・関心を喚起しつつ、言語活動を通して、生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮する。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
上巻 【評論編】— 文化の広がり 対話の精神／ミロのヴィーナス	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の敬愛と協力を重んじ、社会の形成に主体的に参画するとともに、国際社会の発展に寄与する態度を養うことをねらいとし、他者に対話し続けることの大切さを説いた「対話の精神」を収録した。(第3・5号) ・広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことをねらいとし、ミロのヴィーナスについて論じた「ミロのヴィーナス」を収録した。(第1号) 	pp. 8-23
二 思考と認識 可能無限／ホンモノのおカネの作り方	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことをねらいとし、人間が内包する可能性について論じた「可能無限」、貨幣の本質について論じた「ホンモノのおカネの作り方」を収録した。(第1・2号) 	pp. 24-39
三 自然と科学 自然に学ぶ／からだで味わう動物と情報を味わう人間	<ul style="list-style-type: none"> ・生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこととともに、幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操を涵養することをねらいとし、人間社会と比較した自然のあり方を論じる「自然に学ぶ」を収録した。(第1・4号) ・幅広い知識と教養を身に付け、科学的真理を求める態度を養うことをねらいとし、「おいしさ」をめぐる人間と動物の相違について論じた「からだで味わう動物と情報を味わう人間」を収録した。(第1号) 	pp.40-53
四 メディアと情報 インターネットと人間観の変容／生命情報・社会情報・機械情報	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことをねらいとし、インターネットによって人間存在の捉え方が変わってきていることを説く「インターネットと人間観の変容」を収録した。(第1号) ・さまざまな情報の中から真理を求め、主体的に社会の形成に参画する態度を養うことをねらいとし、情報社会における身体性の回復を論じた「生命情報・社会情報・機械情報」を収録した。(第1・3号) 	pp.54-73
五 言語の世界 敬語への自覚、他者への自覚／人を指す言葉—自称詞・対称詞・他称詞	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活における他者とのコミュニケーションについて考えを深めることをねらいとし、他者との距離という視点から敬語について考察した「敬語への自覚、他者への自覚」を収録した。(2・3号) ・言語についての幅広い知識と教養を身に付けるとともに、伝統や文化への理解を深めることをねらいとし、人を指す言葉に注目して、日本語や日本人の特性について論じた「人を指す言葉—自称詞・対称詞・他称詞」を収録した。(第1・5号) 	pp. 74-89

<p>六 社会と共同体 コミュニティから見た日本／分かち合う社会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統と文化を重んじ、国際社会の発展に寄与する態度を養うことをねらいとし、グローバル化の流れの中におけるコミュニティや文化のあり方について論じた「コミュニティから見た日本」を収録した。(第5号) ・社会生活における他者とのコミュニケーションについて考えを深めることをねらいとし、食事を分かち合う存在としての人間について論じた「分かち合う社会」を収録した。(第2・3号) 	pp. 90-109
<p>七 政治と思想 多数決を疑う／「である」ことと「する」こと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、正義と責任を重んじ、公共の精神に基づいて主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことをねらいとし、多数決について考察を深める「多数決を疑う」を収録した。(第1・3号) ・自主及び自立の精神を養い、他者と協調しながら社会の形成に参画することをねらいとし、「である」と「する」という視点から社会を論じた『「である」ことと『する』こと』を収録した。(第2・3号) 	pp. 110-135
<p>【文学編】一 近代の小説 山月記／こころ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・想像力を養い、豊かな情操を培うとともに、我が国の文学的伝統に接することができるよう配慮し、近代の名作「山月記」、「こころ」を収録した。(第1・5号) 	pp. 150-197
<p>二 現代の小説 巨人の接待／美神</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな情操と他者への想像力をはぐくむことをねらいとし、文学の巨人と通訳との交流を描いた「巨人の接待」、R 博士と女神像の間の秘密を描いた「美神」を収録した。(第1・3号) 	pp. 198-229
<p>三 詩・短歌・俳句 竹／蟬頃／樹下の二人／永訣の朝／I was born／短歌 十三首／俳句 十五句</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・想像力を養い、豊かな情操を培うとともに、我が国の言語文化に親しむことをねらいとし、文語・口語合わせて5編の詩、幅広い作者による短歌を13首、俳句を15句収録した。(第1・5号) 	pp. 230-256
<p>【表現編】実用的な文章 「お」と「ご」の使い分けについて／こんな人を見た。(地下鉄の乗車マナーを促すポスター)／世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約(前文)／小論文入門</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言語についての幅広い知識と教養を身に付け、伝統や文化への理解を深めることをねらいとし、言葉の使い分けについて論じた『「お」と『ご』の使い分けについて』を収録した。(第1・5号) ・伝統と文化の価値を知り、あわせて我が国の伝統と文化を尊重する姿勢をはぐくむことをねらいとし、世界遺産に関する条文である「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約(前文)」を収録した。(第5号) ・創造性を培い、想像力を養い、あわせて公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことをねらいとし、「こんな人を見た。(地下鉄の乗車マナーを促すポスター)」を収録した。(第2・3号) ・言語についての幅広い知識と教養を身に付け、社会生活に密着した文章や図表の読み取り、自分の考えを書く能力を伸ばすことをねらいとし、「小論文入門」を収録した。(第1・2号) 	pp. 258-276

<p>下巻 【評論編】一 ヒューマニズムと知性 「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ／文明と文化の教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな情操を培うとともに、個人を尊重し、その能力を伸ばすことを重視し、公共の精神などについて考えを深めることをねらいとし、他者に対して自分の能力を生かすことを義務として引き受ける精神のあり方を説く『「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ』を収録した。(第1・2・3号) ・幅広い知識と教養を身に付けるとともに、伝統と文化の特質を学び、尊重する態度を身に付けることをねらいとし、文明とは異なる文化のありかたを示す「文明と文化の教育」を収録した。(第1・5号) 	pp. 8-21
<p>二 生命と多様性 生物多様性の恩恵／虫愛づる姫君</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことをねらいとし、生物多様性を保全し活用することの重要性を説いた「生物多様性の恩恵」、生命の本質を見極めることの大切さを語る「虫愛づる姫君」を収録した。(第4号) 	pp. 22-39
<p>三 空間と時間 風景はどのように立ち現れるか／日本文化の三つの時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付けるとともに、我が国の伝統と文化を重んじる態度を養うことをねらいとし、風景の見方について論じる「風景はどのように立ち現れるか」、古典をひきながら日本文化の三つの時間について論じた「日本文化の三つの時間」を収録した(第1・5号) 	pp.40-57
<p>四 身体と哲学 こころは見える？／猫は後悔するか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操を培うことをねらいとし、こころと身体の関係論じた「こころは見える？」を収録した。(第1号) ・言語についての幅広い知識と教養を身に付けるとともに、真理を求める態度を養うことをねらいとし、言葉と世界の成り立ちの関係を説く「猫は後悔するか」を 	pp.58-77

	収録した。(第1・5号)	
五 社会とネットワーク リスク社会としての現代／ネットワーク上のコミュニケーション	・幅広い知識と教養を身に付け、さまざまな情報の中から真理を求め、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことをねらいとし、現代社会におけるリスクについて考察した「リスク社会としての現代」、インターネットにおけるコミュニケーションのあり方を論じた「ネットワーク上のコミュニケーション」を収録した。(第1・3号)	pp. 78-97
六 文学の言葉 無常ということ／姿－日本のレトリック	・文学や言語に関する幅広い知識と教養を身に付けるとともに、我が国の伝統と文化を重んじる態度を養うことをねらいとし、生きた歴史の受け取り方を説いた「無常ということ」、和歌の表現の本質をめぐって日本のレトリックを語る「姿－日本のレトリック」を収録した。(第1・5号)	pp. 98-115
七 近代と文化 現代日本の開化／陰翳礼讃	・日本の近代に関する幅広い知識と教養を身に付け、自主及び自立の精神を養い、あわせて我が国の伝統と文化を尊重する姿勢をはぐくむことをねらいとし、日本を代表する文豪が、日本の近代の運命について語った「現代日本の開化」、日本の伝統的価値観を「闇」の中に見いだす「陰翳礼讃」を収録した。(第1・2・5号)	pp. 116-137
【文学編】－ 近代の小説 檸檬／伊豆の踊り子／舞姫／たけくらべ／武蔵野	・想像力を養い、豊かな情操を培うとともに、我が国の文学的伝統に接することができるよう配慮し、近代の名作「檸檬」「伊豆の踊り子」「舞姫」「たけくらべ」「武蔵野」を収録した。(第1・5号)	pp. 152-221
二 現代の小説 離さない／蘭／赤い繭	・想像力を養い、豊かな情操を培うことをねらいとし、何かに「執着する」ことの意味を考えさせる「離さない」、戦争時の、ある少年の人生への目覚めを描く「蘭」、自分の家を探してさまよう男を象徴的に描いた「赤い繭」を収録した。(第1号)	pp. 222-252

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・単元末8箇所はその単元で取り上げた内容やテーマに関連する知識、参考になる書籍をまとめたコラム「評論の視点」「文学の視点」を設け、幅広い知識や教養を身に付けられるよう工夫した。
- ・「評論編」の末尾には、近現代の評論の概要についてキーワードや年表などで解説を施した「近現代評論史」を設け、評論に関しての幅広い知識や教養を身に付けられるようにした。また、評論などでよく取り上げられるテーマや語句について解説した「キーワード解説」を設置し、よりいっそう幅広い知識を身に付けられるよう配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、担当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-85	高等学校	国語	現代文B	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
50 大修館	現B329/330	現代文B 改訂版 上巻 下巻		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

●基本方針

- ・近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高め、ものの見方、感じ方、考え方を深めることができるよう配慮した。

●構成

- ・これまでの高等学校学習指導の継続性を考慮して、単元構成はジャンル別とした。
- ・2学年にわたって履修することも考慮して、全体を大きく「上巻」「下巻」の2分冊に分けた。

●教材選択にあたっての配慮

- ・教材は、評価の定まっている基本的な作品や、現代の高校生が読むに値するテーマを追求した新鮮な作品、我が国の伝統的な言語文化への関心を深める作品をバランスよく配置した。
- ・社会から要請されている論理的思考力を育てるため、とくに評論教材に質量ともに重点をおいた。
- ・上巻に単元「実用的な文章」を設け、広告や法律の文章、小論文など、実用的な表現に触れられるよう配慮した。
- ・下巻に単元「近代の小説」を設け、近代以降の文語文を収録して、言語文化を深く学べるよう配慮した。

●教材化の工夫

- ・評論などを読み解く際に大切な語句を「キーワード」として示した。「評論編」と「文学編」の間に設置した「キーワード解説」とあわせて語彙力の育成に資するようにした。
- ・生涯を通じた読書生活の充実に配慮し、各教材に「次の一冊」を配置し、読書への意欲を喚起するよう工夫した。
- ・教材化にあたっては、生徒の興味・関心、学習意欲を喚起する工夫を施すとともに、学習の参考となる写真や図版などを豊富に提示した。

●言語活動

- ・教材の末尾に、必要に応じて「話す・聞く」「書く」に関する設問を設け、言語活動を通じて総合的な言語能力を培うことができるよう配慮した。

●評論関連教材の充実

- ・「評論編」と「文学編」の間に、近現代の評論の概要について、年表やキーワードなどで解説を施した「近現代評論史」と、評論などでよく取り上げられるテーマや語句について解説した「キーワード解説」を設置し、幅広い知識を身に付けられるよう配慮した。

●コラムの充実

- ・評論単元には、単元の内容やテーマについての理解を深め、論理的思考力を着実に高めるためのコラム「評論の視点」、文学単元には、作品をより深く豊かに味わうためのコラム「文学の視点」を収録した。コラム内には単元やコラムの内容に関連する書籍を紹介する「ブックガイド」を設け、読書に親しむ態度を育成できるよう工夫した。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容								箇所	担当 授業 時数
		(1)指導事項				(2)言語活動例					
		ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ		
[上巻]											
一 評論編											
一 文化の広がり	対話の精神	○	○		○		○	○		pp.8-14	
	ミロのヴィーナス	○	○		○		○			pp.15-21	
	評論の視点①	○	○		○					pp.22-23	
二 思考と認識	可能無限	○	○		○	○	○	○		pp.24-31	
	ホンモノのおカネの作り方	○			○		○		○	pp.32-39	
三 自然と科学	自然に学ぶ	○	○	○		○		○	○	pp.40-45	
	からだで味わう動物と情報を味わう人間	○	○			○		○	○	pp.46-53	
四 メディアと情報	インターネットと人間観の変容	○		○		○			○	pp.54-64	
	生命情報・社会情報・機械情報	○		○		○		○	○	pp.65-71	
	評論の視点②	○		○		○				pp.72-73	
五 言語の世界	敬語への自覚、他者への自覚	○				○		○	○	pp.74-80	
	人を指す言葉	○		○		○		○	○	pp.81-89	
六 社会と共同体	コミュニティから見た日本	○				○		○		pp.90-99	
	分かち合う社会	○				○		○	○	pp.100-109	
七 政治と思想	多数決を疑う	○		○	○	○			○	pp.110-117	
	「である」と「する」こと	○	○	○	○	○		○	○	pp.118-133	
	評論の視点③	○		○		○				pp.134-135	
	近現代評論史					○				pp.136-139	
	キーワード解説					○				pp.140-148	
二 文学編											
一 近代の小説	山月記	○	○	○		○	○		○	pp.150-163	
	こころ	○	○			○	○		○	pp.164-196	
	文学の視点①	○		○		○				pp.197	
二 現代の小説	巨人の接待	○	○			○	○		○	pp.198-218	
	美神	○	○			○	○		○	pp.219-229	
三 詩・短歌・俳句	竹		○			○	○		○	pp.230-231	
	蟬頃		○			○	○		○	pp.232-233	
	樹下の二人		○			○	○		○	pp.234-237	
	永訣の朝		○			○	○		○	pp.238-243	
	I was born		○			○	○		○	pp.244-247	
	短歌十三首		○			○	○		○	pp.248-252	
	俳句十五句		○			○	○		○	pp.253-256	
三 表現編											
実用的な文章	「お」と「ご」の使い分けについて	○			○	○		○	○	pp.258-262	
	こんな人を見た。(地下鉄の乗車マナーを促すポスター)	○	○	○	○	○		○		pp.263	
	世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約(前文)	○		○		○		○	○	pp.264-267	
	小論文入門			○	○	○	○	○	○	pp.268-276	

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容								箇所	担当 授業 時数	
		(1)指導事項				(2)言語活動例						
		ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ			エ
[下巻]												
一 評論編												
一 ヒューマニズムと知性	「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ	○	○	○		○	○		○		pp.8-14	
	文明と文化の教育	○	○			○		○		○	pp.15-21	
二 生命と多様性	生物多様性の恩恵	○	○	○		○	○	○		○	pp.22-29	
	虫愛づる姫君	○	○			○		○		○	pp.30-37	
	評論の視点④	○		○		○					pp.38-39	
三 空間と時間	風景はどのように立ち現れるか	○				○		○		○	pp.40-51	
	日本文化の三つの時間	○	○			○		○		○	pp.52-57	
四 身体と哲学	こころは見える？	○	○	○		○		○		○	pp.58-64	
	猫は後悔するか	○	○			○		○		○	pp.65-75	
	評論の視点⑤	○		○		○					pp.76-77	
五 社会とネットワーク	リスク社会としての現代	○		○	○	○				○	pp.78-87	
	ネットワーク上のコミュニケーション	○			○	○		○		○	pp.88-97	
六 文学の言葉	無常ということ	○	○	○		○	○	○		○	pp.98-103	
	姿——日本のレトリック	○	○			○		○		○	pp.104-115	
七 近代と文化	現代日本の開化	○	○	○		○	○			○	pp.116-127	
	陰翳礼讃	○	○	○		○		○			pp.128-135	
	評論の視点⑥	○		○		○					pp.136	
	近現代評論史					○					pp.138-141	
	キーワード解説					○					pp.142-150	
二 文学編												
一 近代の小説	檸檬	○	○		○	○	○		○		pp.152-163	
	伊豆の踊り子	○	○			○	○		○		pp.164-181	
	舞姫	○	○	○	○	○	○		○		pp.182-212	
	文学の視点②	○		○		○					pp.213	
	〈参考〉たけくらべ	○	○	○		○	○		○		pp.214-217	
	〈参考〉武蔵野	○	○	○		○	○		○		pp.218-221	
二 現代の小説	離さない	○	○	○		○	○		○		pp.222-235	
	蘭	○	○	○		○	○		○		pp.236-245	
	赤い繭	○	○			○	○		○		pp.246-252	